

て、妊娠早期からのさまざまな相談に応じ、医療機関などと連携しながら、訪問による支援や住まいの提供、日常生活の支援を行うとともに、子育て世代包括支援センターにおいても、関係機関と連携して支援を行っている。

児童虐待防止に早い段階でのプッシュ型支援の取り組みを 無所属

問 児童虐待を未然に防ぐためにも、生きる上でさまざまな問題を抱え、虐待が起こってしまうかねない状況に直面する家庭の早期発見と、その家庭に対して早い段階でプッシュ型の支援が届く仕組み・取り組みが今後極めて大切だと考えるが、所見を問う。

答 児童虐待は、さまざまな要因により家族関係が不安定になって起こるものと考えており、家庭が抱える課題を早めに取り、不安や悩みが小さなうちから支援する未然防止の施策にしっかりと取り組んでいく。

農福連携にどう取り組むのか 令和会

問 農福連携により、農家は担い手不足の解消になり、障がい者は農作業により心も体も元気に豊かに生きることができ、自立の足掛かりになる。耕作放棄地対策にもつながる可能性がある農福連携に今後どう取り組むのか。

答 福祉事業者や農業法人が主体となった連携であれば、耕作放棄地を絡めた農業と福祉の双方がWin-Winとなり得る取り組みが可能と考えられる。どのようなサポートが必要か、ある

いはできるのかなどについて、今後しっかりと検討していく。

コロナ禍の今こそ、福岡版アーツカウンシルの設置を 公明

問 文化芸術活動者の支援として、これまで、再三、アーツカウンシルの設置について要望してきた。コロナ禍の今こそ、福岡らしい、福岡版アーツカウンシルの設置が必要と考えるが所見を。

答 福岡市文化芸術振興財団において、令和4年度当初にアーツカウンシルの機能を担う推進体制を設置し、現在実施しているステップアップ助成プログラムや相談対応等の充実を図り、文化芸術活動者のさまざまな状況に応じた支援を行っていきけるよう取り組む。

アーツカウンシル

※アーツカウンシル
国内の事例では、文化芸術の支援策を有効に機能させるため、各都市の文化芸術財団内に設置し、助成事業を中心に、相談事業、広報事業などを実施するソフト部門を「アーツカウンシル」と位置付けている都市が多い。

利用頻度の低い公園の集約など公園行政に再配置の方法も 自民新

問 昔、幼児公園は多くの子どもたちに使われていたが、現在では利用頻度が低くなっている。比較的手狭なこれらの公園を集約し再配置することにより、もつと公園が活用されるようになると思うが、市の考えを尋ねる。

答 利用頻度の低い公園を廃止することは、地域の合意形成などの課題がある。要望があった場合には、公園の機能向上がどの程度図

られるのか、また、地域の合意形成の状況はどうかといったことも踏まえ、適切に対応していく。

動物交流事業の進め方とゾウの受け入れ時期の見直しは 自民

問 野生動物や希少動物の保護活動や種の保全について、ミャンマー側と協力して成果を上げてもらいたい。今後の進め方とゾウの動物園への受け入れ時期の見直しを問う。

答 交流事業を進める前提として、両国のコロナ情勢やミャンマーの治安情勢が好転し、職員が相互に安心して行き来できるようになることが必要である。ゾウの受け入れ時期については、現時点では見直しはつきりしていないが、条件が整い次第、できるだけ速やかに進めていきたい。

筥崎宮地区における都市景観の取り組みに対する支援を 自民新

問 筥崎宮を中心とするエリアにおいて、「筥崎宮地区歴史景観づくり準備会」が設立され、行政の支援の下、地域主体で景観づくりを進めており、地域の取り組みに対する一層手厚い支援を行っていく必要があると考えるが所見を問う。

答 同地区は景観づくりに対する意識が高く、都市景観形成地区の指定に向けて熱心な活動が継続されている。今後とも、地域主体の取り組みをしっかりと支援しながら、歴史資源を生かした景観づくりに取り組んでいく。

市主催の健診事業での事故に市による第三者委員会設置を

市が主催する集団健診事業で発生した誤嚥事故は、原因・対応に本人や遺族が疑問を抱いたまま7年を経過した。市による第三者委員会を設け異議申し立てできる制度を創設し、真相究明を迅速かつ適正に行えるようにする必要があるので所見を問う。

問 本件については、現在、第三者の専門家による検証が行われている。医療事故については、事故が発生した医療機関において調査、検証を行うことが通例であり、今後とも事案に応じて、適宜、適切に対応していく。

市としても主体的にオンデマンド交通の具体的な検討を 自民

問 現在本市で進んでいる事業者主体のオンデマンド交通の実証運行に加えて、本市としても主体的に、オンデマンド交通の利便性、採算性などの課題に関する具体的な検討を進めてもらいたい。所見を問う。



実証運行中のオンデマンド交通

答 生活交通条例に基づく路線バスの休止対策などに着

実に取り組んでいくとともに、オンデマンド交通について、まずは運行内容の工夫などによる試験的な運行を視野に検討を進めるなど、地域の実情に応じた持続可能な生活交通の確保に努めていく。

ワクチン接種を実施してない医師にも副反応報告の周知を 緑ネ

問 新型コロナウイルス接種を実施する医師だけでなく、副反応や死亡診断書を書く可能性のある医師に対しても、副反応等に関して、報告マニュアルを配布し、国へ報告するように周知しているのか。

答 各種予防接種については、副反応が疑われる症状が認められた場合には、副反応疑い報告書を国に提出するように医師会を通じて各医療機関に周知し、特に新型コロナウイルスについてはマニュアルを接種医療機関に配布し、周知の徹底を図っている。

レッドゾーンの解消に向けて市としても独自の対策を 自民

問 レッドゾーンの解消に向けて、た急傾斜地崩壊対策事業は県が実施するものだが、他の政令市とも情報交換を行いながら、国から直接補助が受けられるような制度の要望など国・県への働きかけと市独自の対策を検討してもらいたい。市内のレッドゾーンで、事業の対象箇所と、そのうち年間工事箇所はいくつあるのか。

答 市内のレッドゾーンのうち、事業の対象箇所は147カ

所となっており、県における工事の実施状況は、近年3カ所程度で複数年かけて進められている。

地球温暖化防止に向けた率先した取り組みの推進を 無所属

問 地球温暖化防止対策については、太陽光パネルなど、すぐできることを市が率先して進めてもらいたい。人を集めるだけでなく、環境にも頑張っている市にしていきたい。地球温暖化防止対策への決意を問う。

答 市においては、世界が目指すカーボンニュートラルに積極的に取り組むこととし、2040年度を目指したチャレンジを行っていき。今後とも、市民、事業者と連携して、市役所もしっかりと率先しながら、脱炭素社会の実現に取り組んでいく。

このほかの主な質問

- 市立図書館における返却遅延本の取扱いについて
- ヤングケアラー問題について
- 防災重点ため池の対策について
- 須崎公園における樹木の保存について
- 空き家の有効活用について
- ボトル・ボトルリサイクルについて
- 都市計画道路吉塚松崎線の整備促進について